

# 下水道使用料改定の背景について

－改定日：令和6年4月1日－

# 目次 ー下水道使用料改定の背景についてー

## 1 千葉市の下水道

- ・ 下水道の役割
- ・ 下水道管の整備状況
- ・ 処理場/ポンプ場の整備状況
- ・ 下水道施設の老朽化

## 2 下水道使用料

- ・ 使用料の使いみち
- ・ これまでの使用料改定

## 3 現在の経営状況

- ・ 借入額の返済
- ・ 使用料収入の減収
- ・ 維持管理費用の増加
- ・ 純利益の見通し

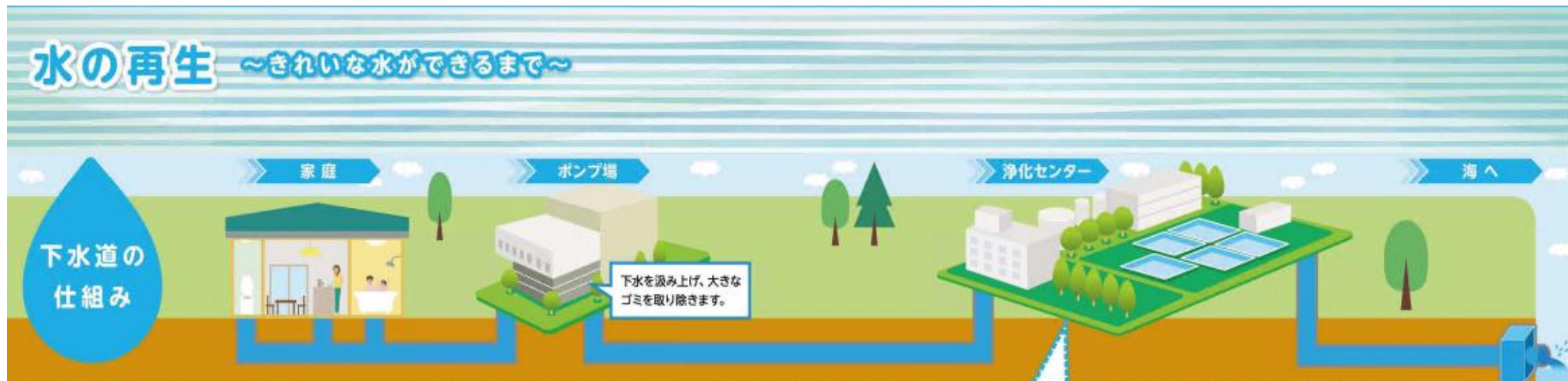
## 4 使用料改定率について

- ・ 事業資金の収支見込みと経営改善によるコスト削減
- ・ 電力価格高騰分の負担

## 5 最後に

# 1 千葉市の下水道

## 下水道の役割



—千葉市パンフレット「みんなの下水道」より—

- 下水道は生活や産業で使った水を地中に埋まっている下水道管を通して、浄化センターと呼ばれる下水処理施設まで流送し、同センターにおいて環境にやさしい水へと浄化処理した上で海へ流すことで、水を循環させるシステムです。
- 下水道は、
  - ・生活排水等の排除による衛生的な生活環境の維持
  - ・海や河川等の公共用水域の水質保全
  - ・大雨時の浸水被害を軽減するための雨水排除

などに貢献しており、私たちの安全・安心で快適な生活に欠かせない重要な施設となります。

# 1 千葉市の下水道

## 下水道管の整備状況

● 【事業開始】 : 昭和10年

● 【下水道管整備】 (令和4年度末時点)

整備延長 : 3,788 km

整備率 : 93.7%

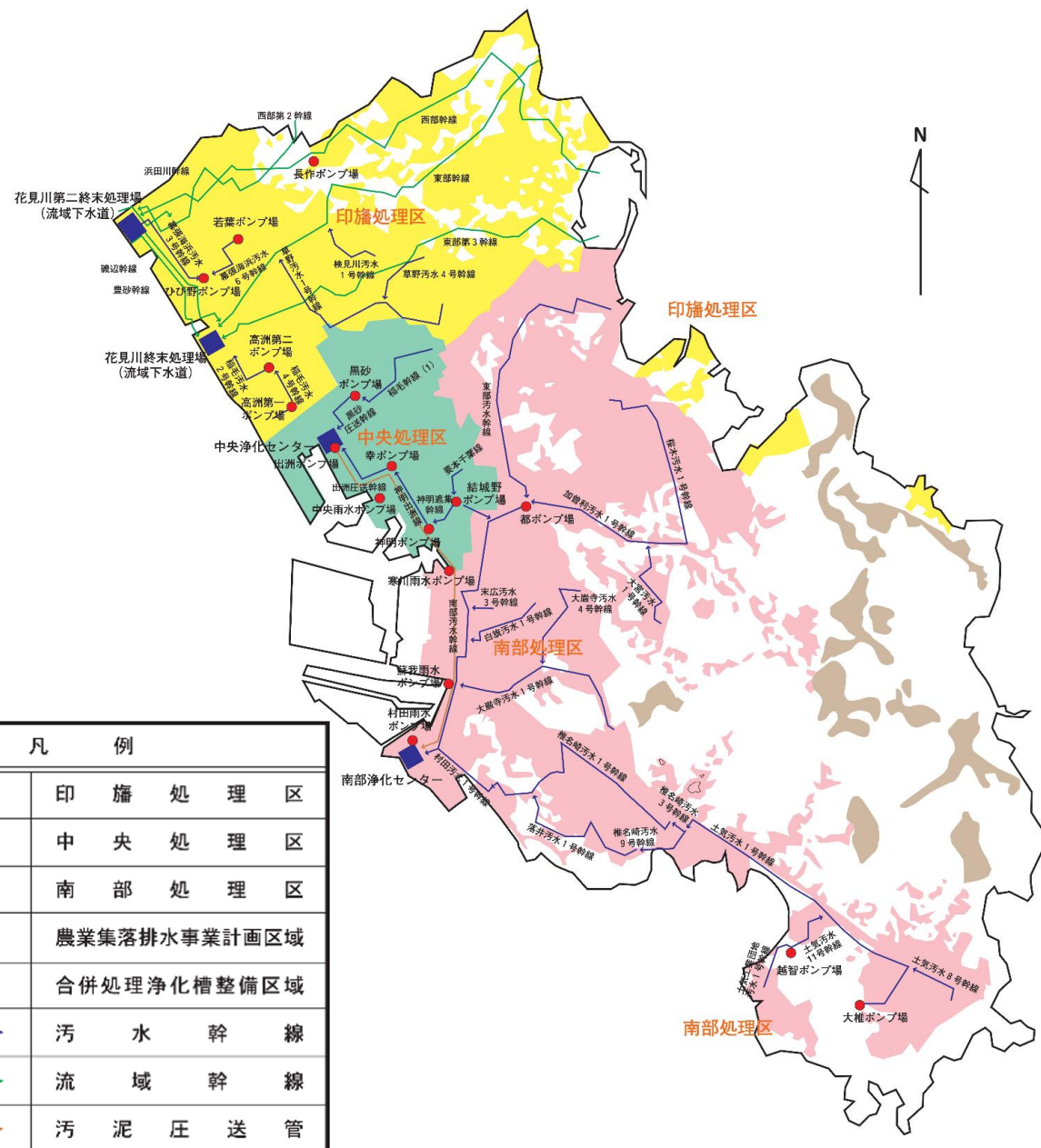
(= 汚水整備面積12,299ha/事業計画面積13,121ha)

下水道処理人口普及率 : 97.5%

(= 整備区域内人口952,325人/行政区域内人口977,086人)

**Check !**

千葉市では、令和4年度末時点で下水道事業計画面積のうち93.7%の汚水管整備を完了し、下水道処理人口普及率は97.5%となりました。汚水整備は概ね完成しています。





# 1 千葉市の下水道

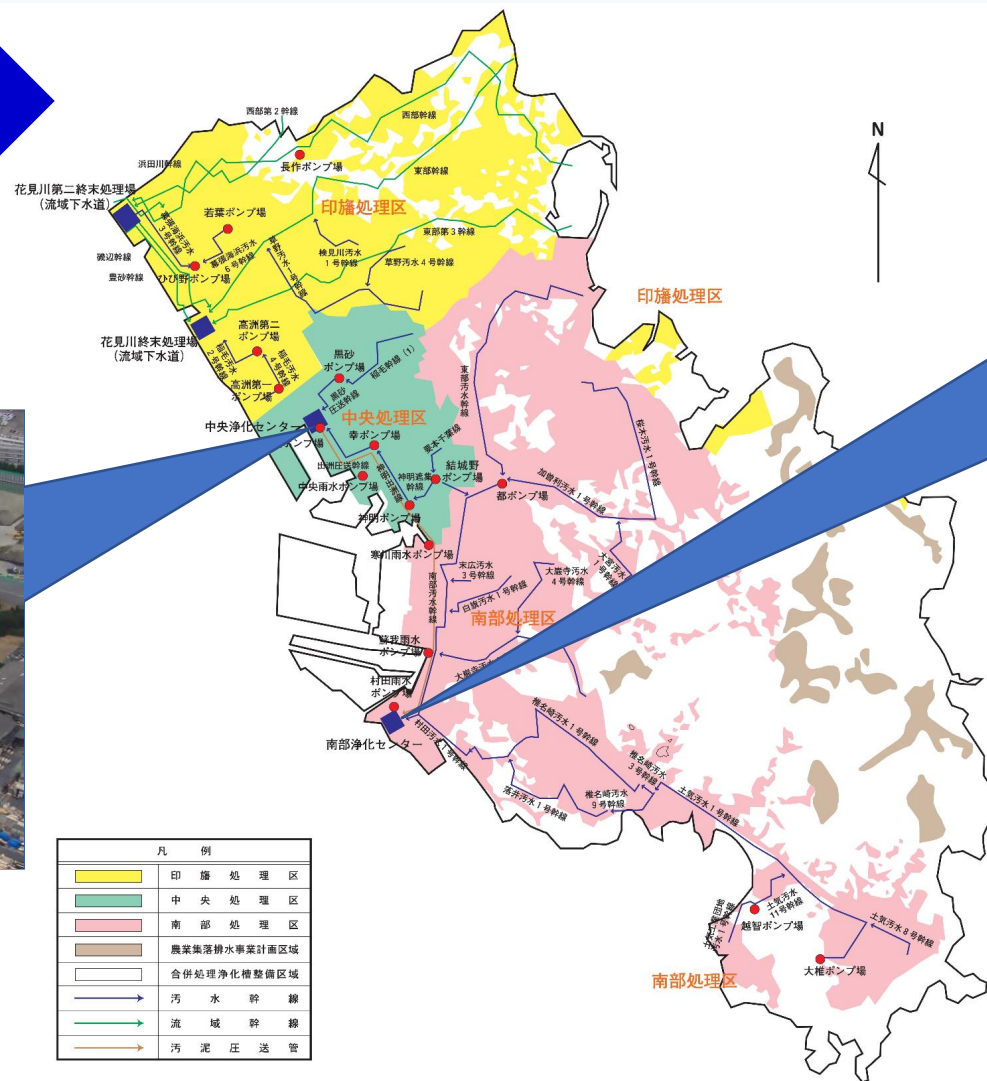
## 処理場/ポンプ場の整備状況



中央浄化センター  
[昭和43年運転開始]

Check!

千葉市では、令和4年度末時点で処理場2箇所とポンプ場148箇所(小規模を含む)を整備し、管理しています。



南部浄化センター  
[昭和56年運転開始]

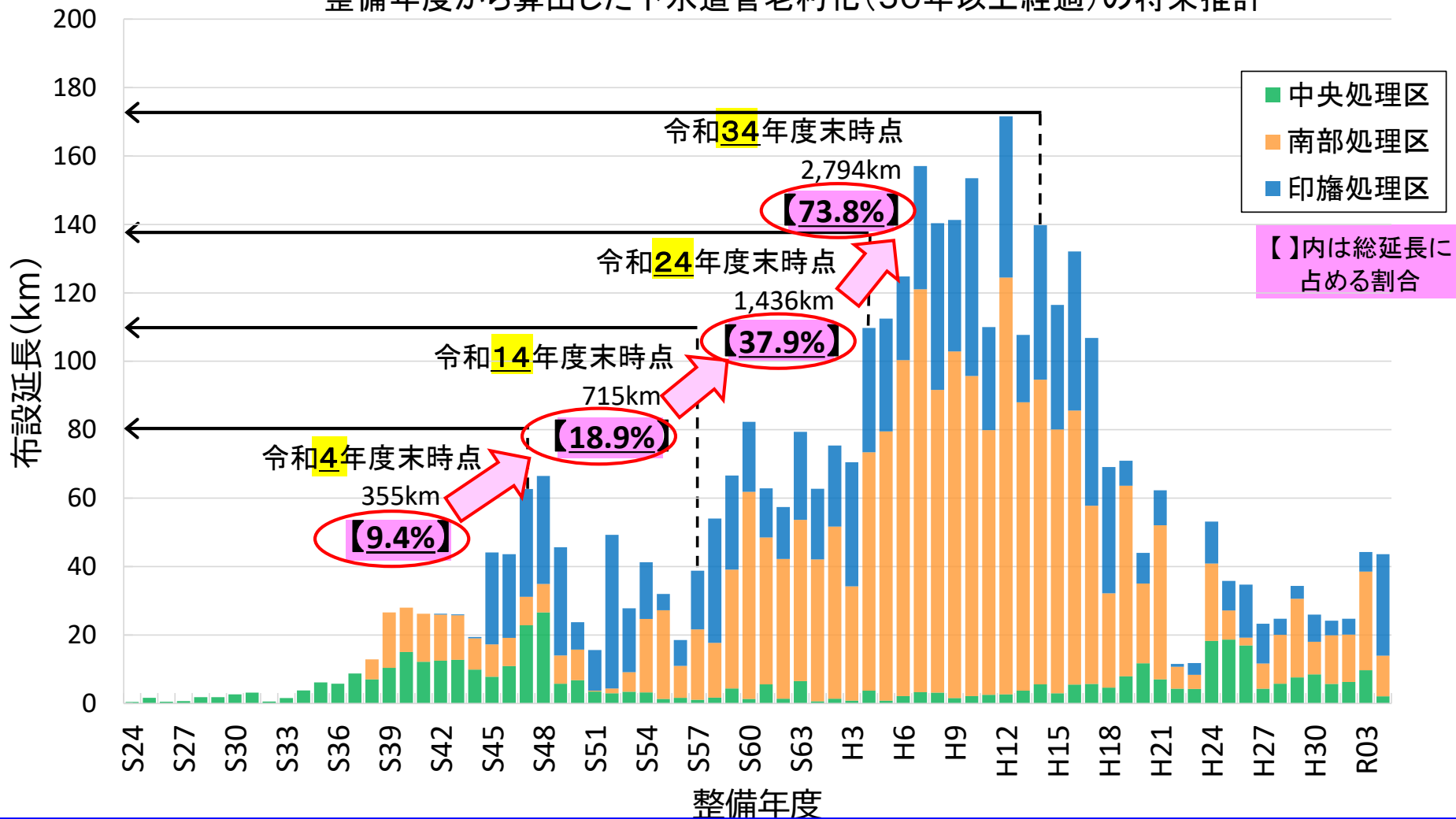
ポンプ場148箇所(小規模を含む)  
⇒ 下水が自然流下できない箇所に設置

# 1 千葉市の下水道

## 下水道施設の老朽化

施設の老朽化 [例: 下水道管 (耐用年数: 50年)]

整備年度から算出した下水道管老朽化(50年以上経過)の将来推計



Check !

過去に整備した下水道施設が老朽化してきており、今後、修繕・更新の費用が増えていく見込みです。

# 目次 ー下水道使用料改定の背景についてー

## 1 千葉市の下水道

- ・ 下水道の役割
- ・ 下水道管の整備状況
- ・ 処理場/ポンプ場の整備状況
- ・ 下水道施設の老朽化

## 2 下水道使用料

- ・ 使用料の使いみち
- ・ これまでの使用料改定

## 3 現在の経営状況

- ・ 借入額の返済状況
- ・ 使用料収入の減収
- ・ 維持管理費用の増加
- ・ 純利益の見通し

## 4 使用料改定率について

- ・ 事業資金の収支見込みと経営改善によるコスト削減
- ・ 電力価格高騰分の負担

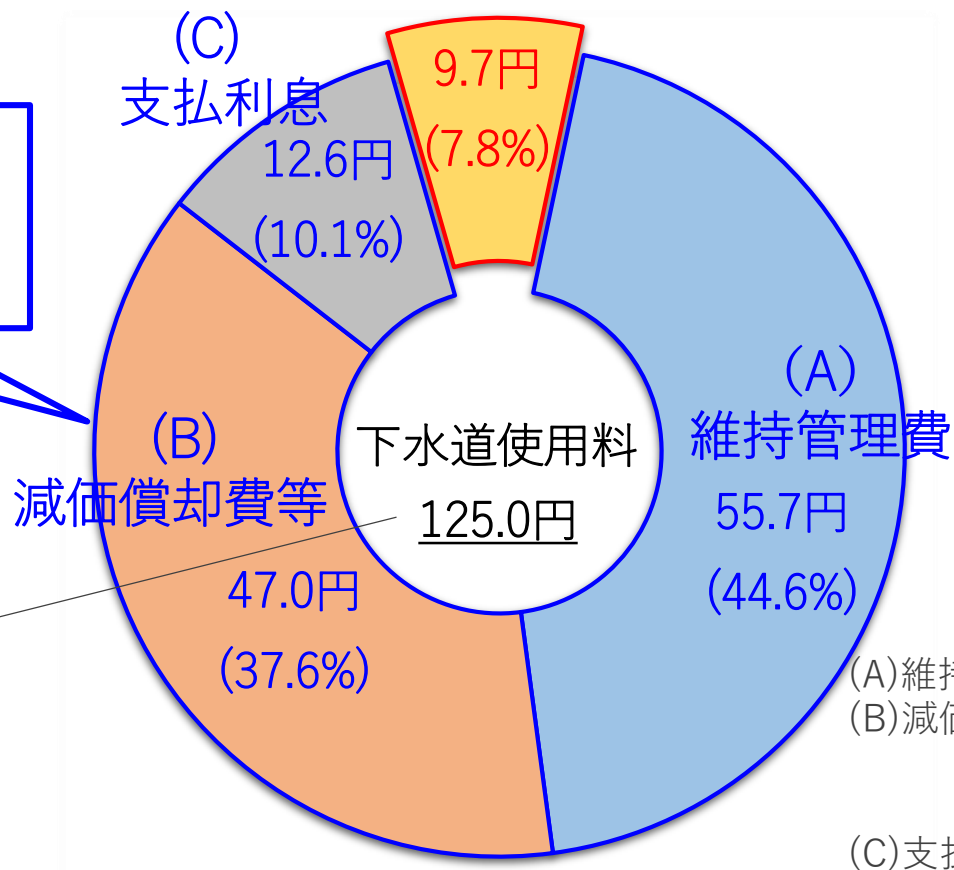
## 5 最後に

## 2 下水道使用料

### 使用料の使いみち

下水道使用料の使いみち[令和4年度決算]

当期純利益 (1m<sup>3</sup>あたり)  
(= 全額が元金返済財源へ)



汚水処理するために、1 m<sup>3</sup>あたり115.3円 [= (A) + (B) + (C)] が必要となります。

利用者の方々から徴収した使用料は汚水1 m<sup>3</sup>あたり平均125.0円に相当します。

1 m<sup>3</sup>あたりの当期純利益9.7円は、**全額**を下水道施設整備の際に借入れた**借金の返済財源**としています。

- (A)維持管理費：下水道施設の運転費用や修繕費用など
- (B)減価償却費：固定資産の取得費用を施設耐用年数に応じて配分し計上することで、借入れた借金の元金返済財源となる費用
- (C)支払利息：下水道整備時に借入れた借金の利息

**Check !**

下水道使用料は、下水道施設の維持管理に係る費用や下水道施設整備時に借入した借金の利息支払い等に使用されており、残りの当期純利益は全額を過去に借入した借金の返済に使用しています。



## 2 下水道使用料

### これまでの使用料改定

改定年月	改定率	料金 (20m <sup>3</sup> /月) [税抜]	基本料金
平成4年4月	32.14%	1,200円	500円 (～10m <sup>3</sup> )
平成7年10月	16.84%	1,360円	550円 (～10m <sup>3</sup> )
平成10年7月	16.77%	1,590円	630円 (～10m <sup>3</sup> )
平成13年4月	4.84%	1,660円	660円 (～10m <sup>3</sup> )
平成16年4月	3.94%	1,720円	680円 (～10m <sup>3</sup> )
平成19年4月	3.91%	1,790円	560円 (0m <sup>3</sup> ～)
平成22年7月	1.90%	1,815円	570円 (0m <sup>3</sup> ～)
平成26年4月	2.56%	1,850円	580円 (0m <sup>3</sup> ～)

**Check !**

このような下水道使用料ですが、平成26年度までは使用料改定を3年～4年ごとに行っていましたが、それ以降はコスト削減など効率的な事業運営に努めてきたことや、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、使用料改定をせずに10年間据え置いていました。

# 目次 ー下水道使用料改定の背景についてー

## 1 千葉市の下水道

- ・ 下水道の役割
- ・ 下水道管の整備状況
- ・ 処理場/ポンプ場の整備状況
- ・ 下水道施設の老朽化

## 2 下水道使用料

- ・ 使用料の使いみち
- ・ これまでの使用料改定

## 3 現在の経営状況

- ・ 借入額の返済状況
- ・ 使用料収入の減収
- ・ 維持管理費用の増加
- ・ 純利益の見通し

## 4 使用料改定率について

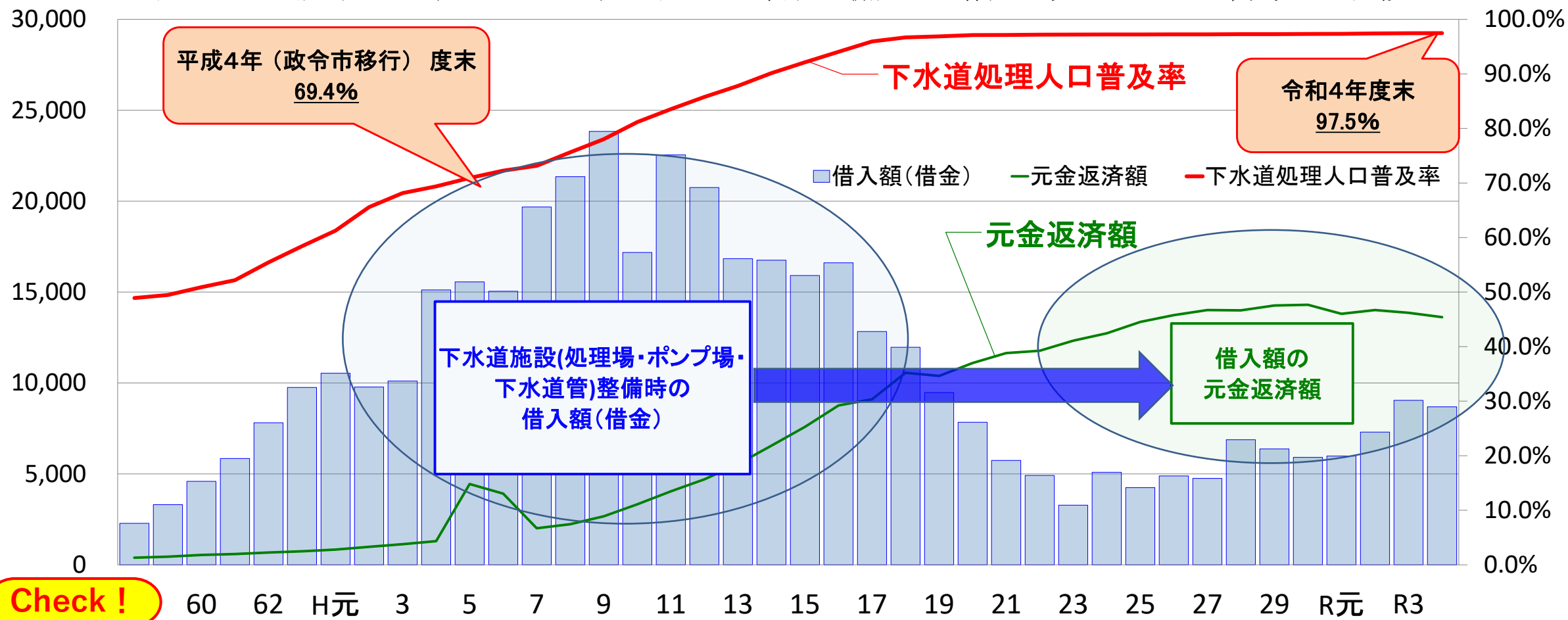
- ・ 事業資金の収支見込みと経営改善によるコスト削減
- ・ 電力価格高騰分の負担

## 5 最後に

# 3 現在の経営状況

## 借入額の返済

〔百万円〕 下水道施設(処理場/ポンプ場/下水道管)整備時の借入額および返済額の推移



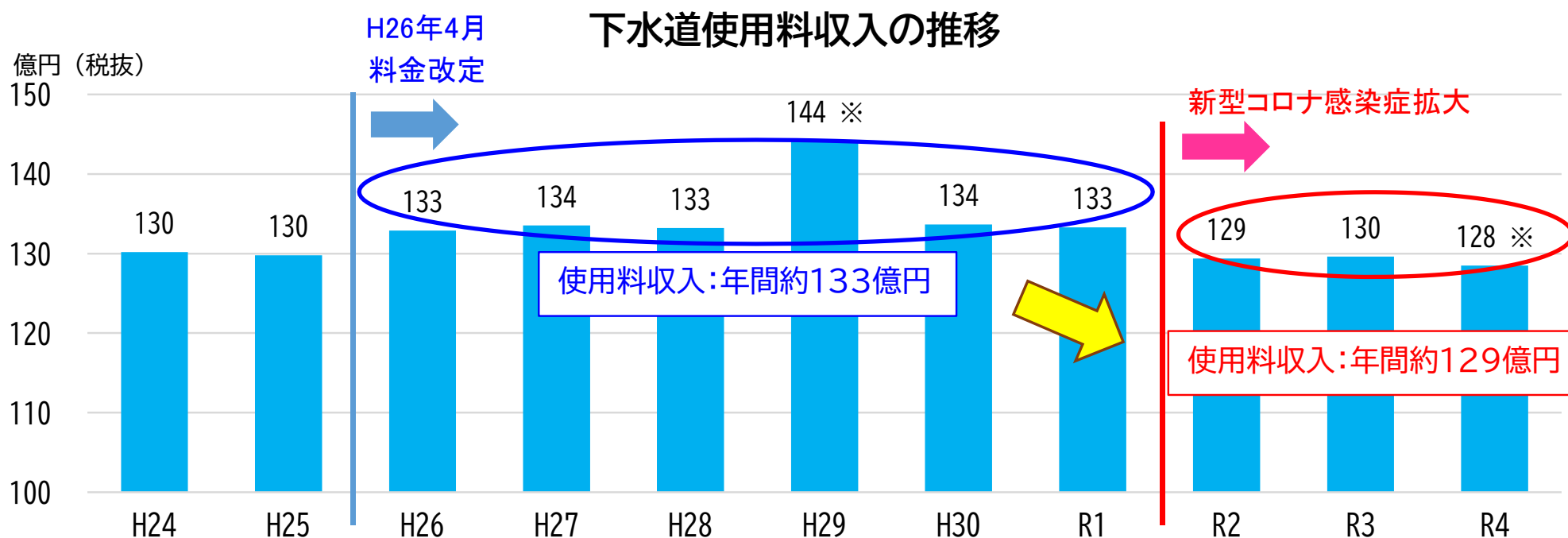
**Check !**

下水道整備を行うためには多額の資金が必要であったため、当時資金を借入れることで対応しました(借金)。現在、その借入額の返済ピークが到来しています。

### 3 現在の経営状況

#### 使用料収入の減収

令和2年度から使用料が大きく減少しています。要因として、同年度から感染拡大した新型コロナウイルス感染症による事業所の活動縮小にともなう使用水量の減少などが影響しています。



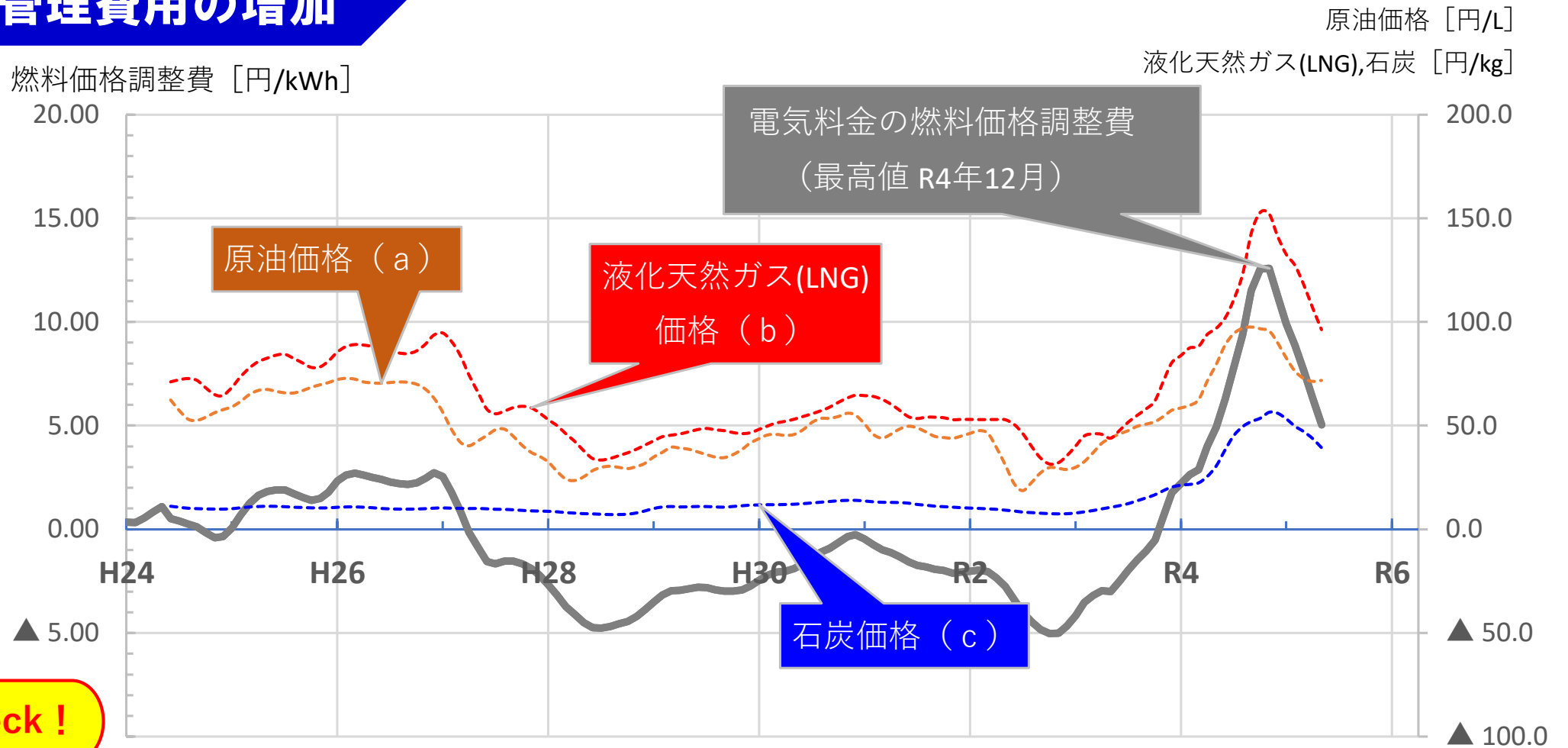
Check !

備考1 ※ 平成29年度は、上下水道料金の徴収一元化を開始し、水道料金と下水道使用料の検針時期の調整などを行ったことから、例年に比べ1か月分程度の下水道使用料の収入増となっています。  
2 ※ 令和4年度使用料特別減免分を含む。

新型コロナウイルス感染症の拡大以降、下水道使用料が大きく減少しています。

### 3 現在の経営状況

#### 維持管理費用の増加



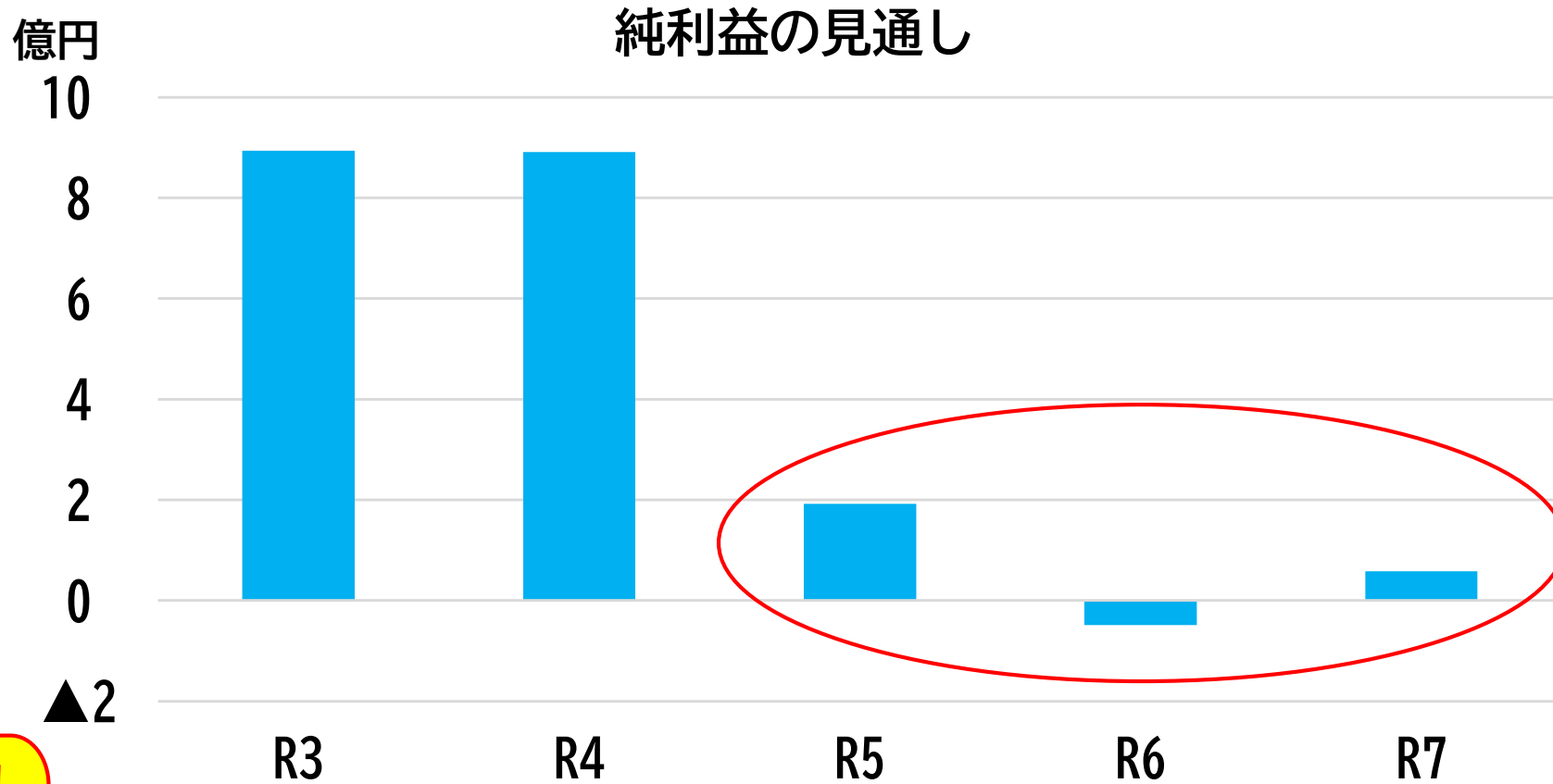
**Check !**

汚水を施設で処理するには多くの電力が必要ですが、電力会社は燃料価格(原油、液化天然ガス、石炭などの価格)の国際的な高騰等を理由に、電気料金単価に含まれる燃料価格相当分を値上げしているため、下水道事業の維持管理費用も増加しています。



### 3 現在の経営状況

#### 純利益の見通し



Check !

使用料収入の減収や、電力価格高騰による維持管理費の増加等により、下水道事業は収入と支出の両面から厳しい経営状況が見込まれます。

# 目次 ー下水道使用料改定の背景についてー

## 1 千葉市の下水道

- ・ 下水道の役割
- ・ 下水道管の整備状況
- ・ 処理場/ポンプ場の整備状況
- ・ 下水道施設の老朽化

## 2 下水道使用料

- ・ 使用料の使いみち
- ・ これまでの使用料改定

## 3 現在の経営状況

- ・ 借入額の返済状況
- ・ 使用料収入の減収
- ・ 維持管理費用の増加
- ・ 純利益の見通し

## 4 使用料改定率について

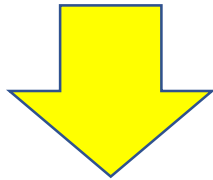
- ・ 事業資金の収支見込みと経営改善によるコスト削減
- ・ 電力価格高騰分の負担

## 5 最後に

## 4 使用料改定率について

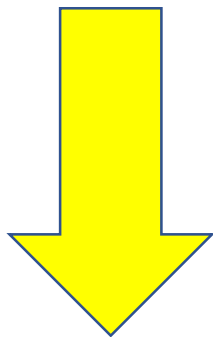
### 事業資金の収支見込み

令和7年度までの経営に関する事業資金の収支見込みを精査した結果、現行使用料金では約22億円の資金不足が生じることが判明しました。



### 経営改善によるコスト削減

資金不足に対応するため、可能な限りの経営努力をする必要性から、さらなる経営改善を進めることにしました。



#### 【経営改善】 ▲3億円

- ・ 安価で簡易的な新たな調査手法を組み合わせるとともに、効率的に修繕・改築することで維持管理コストを削減
- ・ さらなる選択と集中による事業見直しにより、新規の借入債発行額を抑制することで支払利息を削減

**Check !**

しかし、経営改善によりコスト削減(▲約3億円)を実行しても、現行の使用料収入では令和7年度までに約19億円の資金が不足する見込みです。

## 4 使用料改定率について

### 電力価格高騰分の負担

経営改善後の資金不足額（約19億円）を賄うためには、7.3%の使用料改定が必要となります。



公費(市)：約5億円負担  
【電力価格高騰分】

しかし、現在の社会情勢の特殊性および改定率の高さが市民生活へ与える影響の大きさを考慮して、令和5～7年度における電力価格高騰による影響額(約5億円)については市が負担するものとなりました。

Check!

経営改善効果(▲3億円)および電力価格高騰分の市負担(▲5億円)以外の約14億円の資金不足について、利用者に負担していただくとする事で、5.4%の使用料改定をお願いすることになりました。

# 目次 ー下水道使用料改定の背景についてー

## 1 千葉市の下水道

- ・ 下水道の役割
- ・ 下水道管の整備状況
- ・ 処理場/ポンプ場の整備状況
- ・ 下水道施設の老朽化

## 2 下水道使用料

- ・ 使用料の使いみち
- ・ これまでの使用料改定

## 3 現在の経営状況

- ・ 借入額の返済状況
- ・ 使用料収入の減収
- ・ 維持管理費用の増加
- ・ 純利益の見通し

## 4 使用料改定率について

- ・ 事業資金の収支見込みと経営改善によるコスト削減
- ・ 電力価格高騰分の負担

## 5 最後に



## 5 最後に

下水道事業が今後も安定的に継続して運営していくため、令和6年4月の下水道使用料改定にご理解いただきますようお願い致します。